

平成27年7月22日

平成27年度 支援学校フォローアップ研修(第1回)

Aコース 授業づくり

大阪府教育センター支援教育推進室

1

今求められる授業とは

学力の3つの要素

基礎的・基本的な知識・技能

思考力, 判断力, 表現力

主体的に学習に取り組む態度

3

観点別学習状況の評価

基礎的・基本的な
知識・技能

技能

知識・理解

思考力, 判断力,
表現力

思考・判断・表現

主体的に学習に
取り組む態度

関心・意欲・態度

4

今後重視される授業の視点

- 「何を教えるか」・・・
知識の質・量の改善
- 「どのように学ぶか」・・・
学びの質や深まりを重視
- 「どのような力が身に付いたか」・・・
学びの成果として

中央教育審議会(第95回)平成26年11月20日資料より

今求められる授業のあり方

○課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に
学ぶ学習(いわゆる「アクティブ・ラーニング」)
の充実と、そうした学習・指導方法を教育内容
と関連付けて示すための在り方が討議の柱

中央教育審議会(第95回)平成26年11月20日資料より

学習指導案について

作成の意義

授業を行うに当たって、子どもに「どのような力を付けたいか」
を明確にした上で、学習指導の内容や進め方を考えるため

学習(保育)指導案の作成の目的

- ・授業の設計図として
- ・研究授業の際の資料として
- ・授業実践の記録として

7

学習指導案作成について

□□□科 学習指導案(例)

○○○○立○○○学校
指導者 ○○○○

1. 日時 平成○年○月○日(○)第○時限
2. 場所 本館○階 第○学年○組教室
3. 学年・組 第○学年○組(○○名)
4. 単元(題材)名 ○○○○

項目の数や内容は、校種・教科・領域や目的などに
より増減することがあります。
ここでは、基本的な項目を例示します

学習指導案作成について

5. 単元（題材）の目標
 「～ようにする。」
 「～を育てる。」
 「～させる。」など
 ア ～～
 イ ～～ など

1

年間の「指導と評価の計画」に基づき、単元（題材）の目標を明確に記します。この単元（題材）を通じて児童生徒が学ぶべき内容や、付けるべき力を具体的に記述します。

その際、「学習指導要領（文部科学省）」にある「各学年（各分野）の目標及び内容」等を参考にします。

学習指導要領（文部科学省）

6. 教材観
 「～をねらいとします。」

「6.教材観」では、主に単元（題材）の「ねらい」に基づき、教材の本質のどこに注目するのかを、学習内容の系統性ととも記します。加えて、本時の位置付けを記述します。

その際、「学習指導要領解説（教科）編」（文部科学省）を参考にします。

※《本時の学習過程》の「学習内容・学習活動」につながります。

学習指導要領解説（文部科学省）

学習指導案作成について

7. 児童観・生徒観

「7.児童観・生徒観」では、指導に伴い、学習集団としての形成状態や、到達度を示します。学習内容に関する事前調査などを参考に、学習活動を組み立てます。

※《本時の学習過程》の「予想される児童生徒の反応」につながります。

8. 指導観
 「～ようにする。」

「8.指導観」では、「教材観」、「児童観・生徒観」、「評価規準」などを総合的に踏まえ、児童生徒の主体的な学習を促す工夫や、個々に応じた指導についてできるだけ具体的に記します。

指導を通し、「願い」の実現に向けて、「○○○において（場面）、○○○することにより（具体的な手立て）、○○○ようにする（めざす方向）」のように、記述します。

※《本時の学習過程》の「指導上の留意点」につながります。

学習指導案作成について

9. 単元（題材）の評価規準（国語は5観点）
 【教科等による違いはあるが、語尾表現はおおむね下表の通り】

A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
～しようとしている など	～を考えている ～を表現している ～している	～することができる ～を身に付けている など	～を理解している ～を身に付けている など

2

「9.単元（題材）の評価規準」では、単元（題材）の学習を通して身に付けるべき資質や能力が「目標」に照らしてどのような状況にあるかを的確に把握するために、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4観点（国語は5観点）から、「単元（題材）ごとの評価規準」を設定します。

その際、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」（国立教育政策研究所）にある「評価規準に盛り込むべき事項」、「評価規準の設定例」等を参考にします。

※《10.単元の指導と評価の計画》「11.本時の展開（評価規準・評価方法）」につながります。

評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）

学習指導案作成について

10. 単元の指導と評価の計画（全◎時間）

時	学習内容	主な評価規準【観点】
第1時	○～～～	○～～～ ○～～～【C】
第●時 本時	○～～～	○～～～ ○～～～【B】
...		
第◎時		

3

「5.単元（題材）の目標」で設定した内容に沿って、各時の学習内容を具体的に示します。その際、教科書や「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」（国立教育政策研究所）等を参考にします。

※《11.本時の展開（1）本時の目標》につながります。

「9.単元（題材）の評価規準」で設定した観点に沿って、各時の学習内容や学習活動を踏まえ、「主な評価規準【観点】」に具体的に記述します。評価規準の設定は、1 単位時間では 1～2 項目が妥当です。

※《本時の学習過程》の「評価規準（評価方法）」につながります。

学習指導案作成について

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

～ができるようにする。

「10.単元の指導と評価の計画」の「学習内容」に記載された内容を踏まえたもので「～ができるようにする」など具体的な記述をします。
※本時の学習のめあてにつながります。

(2) 本時の評価規準

～を考えている。【B】

「10.単元の指導と評価の計画」で設定した「主な評価規準」を具体的な評価方法とともに記述をします。
※(本時の学習過程)の「評価規準(評価方法)」と一致します。

(3) 本時の準備物

(例) ピクチャーカード(絵カード)
単語カード 等

ここでは、内容理解の助けになる具体物や、ヒントカード、提示用のICT教材などを示すよいでしょう。

学習指導案作成について

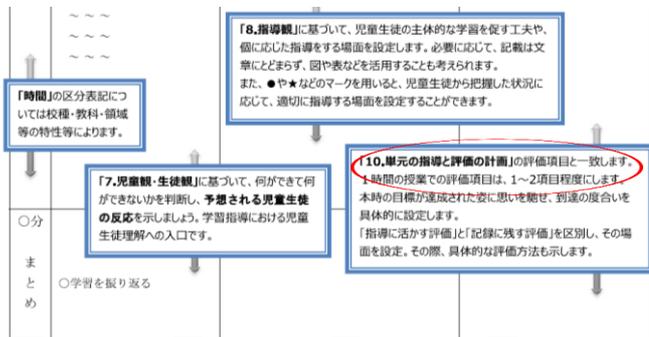
(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
○分	○ ~ ~ ~		
導入	○ 本時のめあては～		
○分	○ ~ ~ ~		
展開	○ ~ ~ ~ 【予想される児童生徒の反応】 ~ ~ ~ ~ ~ ~	●: 指導上の留意点 ★: 理解の不十分な子どもへの手立て 《机間指導》	・ ~について考えた過程を適切に表現している【B】 (ワークシート・観察)

「6.教材観」に基づいて、本時の目標を達成するための学習内容や学習活動を記述します。「課題提示」「発問」「学習形態」など具体的に記すとよいでしょう。

「8.指導観」に基づいて、児童生徒の主体的な学習を促す工夫や、個に応じた指導をする場面を設定します。必要に応じて、記載は文章にとどまらず、図や表などを活用することも考えられます。

学習指導案作成について



1. 子ども主体の授業とは

